

月刊島民

中之島

Vol.40 2011 11/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



大阪市中央卸売市場80周年
「天下の台所」を
見にゆく。



ナカノシマ大学

久坂部羊さんと読む
「中之島ふらふら青春記」
読書会

限定80名
申し込み受付中!



こごろまちつくろ
KEIHAN
京阪電車

ゆっくりと、ゆっくりと、
その橋をわたりました。

北野天満宮もみじ苑
楠葉けい子(大学生)

「北野天満宮もみじ苑」公開期間：11/3(祝・木)～12/11(日)

おけいはん、紅葉ですね。

秋色あざやかな風景のなかへ、京阪電車にのって。

京阪沿線の紅葉名所 三千院、実相院、鞍馬寺、貴船神社、もみじのトンネル(叡山電車)、北野天満宮、下鴨神社(糺の森)、法然院、永観堂、真如堂、南禅寺、青蓮院、高台寺、清水寺、東福寺、泉涌寺、毘沙門堂、醍醐寺、三室戸寺、宇治橋上流、善法律寺、男山、常寂光寺、渡月橋付近、比叡山延暦寺、日吉大社、三井寺、石山寺



宇治橋上流



東福寺



清水寺



哲学の道



叡山電車 貴船口駅



坂本(日吉大社参道)

紅葉めぐりに「便利でお得なチケット」発売!

お問い合わせ 京阪電車お客さまセンター
Tel.06-6945-4560 (9時～19時 ※土休日は17時まで)

「ノンストップ京阪特急」運転!

●運転日 12/4(日)までのすべての土休日

- ① 淀屋橋 9時36分発・京橋・**ノンストップ**・七条・出町柳 10時34分着
- ② 淀屋橋 10時06分発・京橋・**ノンストップ**・七条・出町柳 11時04分着

※事情により運転を休止する場合があります。

おけいはん 検索
www.okeihan.net

京阪の
おけいはん。

市場のある1日。

取材・文・写真／大迫力 松本創 李宗和(以上本誌)

3:00AM

続々と運び込まれる食材。

巨大なトラックがひっきりなしに到着。生産地や港から野菜や魚などを積んで市場へ運んでくるトラックだ。搬入は早い場合は夕方から始まり、深夜にかけてがピーク。人々が寝静まった頃、市場が最も活気づく時間がやって来る。



4:15AM

先陣を切って、マグロのセリ開始。

トラックから降ろされた荷物の多くはセリにかけられる。セリは品目によって時間帯が異なるが、まず最初はマグロから。カランカランと鐘の音を聞いて、仲卸業者たちの目の色が変わる。やはり花形だからか、セリ人の声も実に威勢が良い。



天下の台所

大阪市 中央卸売市場を 見に行く。

甲子園球場4つ半分という広大さを誇る大阪市中央卸売市場には、数多くの食のプロが入りし、全国から集まった旬の食材が行き来する。「天下の台所」や「諸国の台所」と呼ばれた大阪の、そのまた中心だった中之島の機能を今に受け継ぐ場所。今年で開設80周年を迎える街の巨大な「台所事情」を見に行こう。



6:00AM

セリの最後は果物。

果物のセリが始まる頃には、ずいぶん空も明るくなっていた。この日はブドウ類、特にマスカットが目玉だったよう。ちなみに、すべての品目でセリが行われるわけではなく、「相対取引」といって卸売業者と仲卸の間で相談し、値段があらかじめ決まっているものもある。



5:10AM

ちりめんじゃこのセリも。

続いて始まったのがちりめんじゃこ。指でつまんだり、味見して値段を決める人もいる。マグロのセリでは手の平サイズの黒板にチョークで値段を書いてしたが、こちらは紙に書いて入札箱に入れる。心なしかマグロや鮮魚よりも穏やかなムード。



6:30AM

セリ落とされた食材は加工、配送へ。

セリ落とされた食材は仲卸業者の店舗へ。瞬間に小売店に出荷されていく。マグロのような大きな魚は切って出荷する場合も。買い付けにやって来る店主や料理人が多いのもこの時間。最近はずーツ姿の大手スーパーのバイヤーが増えたそうだ。



5:30AM

続いて青果部門。 野菜のセリ。

中央市場には水産と青果それぞれ2社の卸売業者がある。セリに参加する仲卸業者は登録制。商店や料理人は、この仲卸業者の店へ仕入れに行くのだ。さて、魚に続き青果物のセリが始まった。出始めの松茸もセリにかかるのを待っていた。





Ichiba Column 緑の下の巨大いけす。

市場棟の地下にいけすがあると聞いて下りてみれば、そこはちょっとした水族館並みの空間。800kgの水槽が9槽。中で泳ぐはタイ、シマジ、ヒラメ、フグなどの養殖物に天然物も少々。「海水は産地から運ぶんやけど、管理には気を使うね。魚にストレス与えたら味に出るからね」。活魚の取り引きに欠かせない緑の下施設なのである。



8:00AM 水産売場から徐々に和やかに。

夜が明けきり、出勤ラッシュが始まる頃には水産売場のピークは終了。ホッと一息といった感じで一服する人や、缶コーヒー片手に談笑する姿も見られる。この時間ごろから、張りつめていた空気も和やかになっていく。

めくるめく「天下の台所」ショー。

文／松本創

市場はいきなりトップスピードで動き出す。午前3時過ぎ、中之島に面した正門に立つと、トラックがビュンビュン夜風を切つて入ってくる。1階の中央大通路を歩けば、荷降ろし・積み替えのターレットやフォークリフトがやたらと小回り利かせて疾走し、肥えた冷凍マグロが床の上を滑っていく。このめまぐるしいドライヴ感。ほんやりしているとかガをしそうだ。

荷台が水槽になった活魚車の上からタイがボンボン投げ落とされる。下で待ち構える職人たちは脇目も振らずサッサと絞めていく。「手カギでガン」と叩いて、魚串で神経を抜く。苦しませたらあかん。即殺や」。物騒でぶっさらばうな物言いも仕方ない。これは戦いなのだ。時間や鮮度との。

午前4時15分。マグロのセリが始ま

った。メバチ、キハダ、インド…と種類別に50〜100kg超級が並ぶ。セリ人の掛け声には個々のスタイルがあるらしい。シャウター系、相撲の行司調、武将の名乗り風…。響きを楽しんでいると、案内役の仲卸商が突然目の色を変えた。目当てのマグロが出たらしい。セリの輪に駆け寄り、手の平サイズの黒板に数字を書き入れる。しばらく押し合いへし合いやった後、「今日の分は確保できた」と笑顔で戻ってきた。戦い済んだ男の顔である。

3階の野菜売場はもう少し穏やかだ。隼人瓜、むかご、四角豆なんて珍しい食材のセリがごちんまり開かれていたりする。が、その向こうでは、大型トラックが次々と慌ただしく出て行く。セリを通さない「相対取引」で大量発注された野菜が、各地のスーパーに送られていくのだという。空が白んできた頃、再び1階で果物のセリ。目に鮮やかなブドウやメロンがほのかに香ると、体が急速に甘みを求め始めた。食堂にたどり着く頃には心地よい疲労と充足感が全身に染み渡っていた。

「天下の台所」の、そのまた巨大な台所。ここでは毎朝めくるめくショーが開かれる。大阪の食卓を支える、これこそ「キッチンスタジアム」である。



**鮮度をガッチリ守る影の仕事人。
大阪中央冷蔵
増田雅俊さん**

主な業務は冷凍品の管理です。そのため市場内に5階建ての巨大な冷蔵施設を所有しています。施設内には濡れたハンカチを回せばカチンと凍ってしまう-50℃で管理されたフロアもあります。マグロはこれくらい低い温度で冷凍しないと旨みが保てないんです。また、氷の製造販売も行い、1日40tくらい製水しています。セルフのガソリンスタンドのような氷の自動販売機もあり、仲卸や仕入れの方が利用されます。

**マグロの目利きエキスパート。
ヤスひろ
八壽宏商店
木村康之さん**

マグロを中心に扱って25年。「大阪まぐろ業会」の業務委員長もやっています。目利きのポイントは鮮度・脂の乗り具合・肉質…といくつもあって、セリの場で見た目や手触りから見極めるんですわ。「ツラを見る」と言うんやけど、丸ごと買ってきたマグロを店で割った時に想像どおり冴えてる、要は質のええものに出会えるとうれしいね。安く買ってきた時は特にね。べっぴんさんに会おうのと一緒やね(笑)。



**フレッシュ!「なでしこ」セリ人。
大果大阪青果
北野みのりさん**

入社4年目でセリ人の試験に合格、7月にデビューしました。青果部で初の女性です。今はマスカットの担当。セリ台に立って店番と値段を「歌う」んですが、私はまだまだ。仲卸さんが手で示す値段を見落として怒られたり。セリって結局、生産者や仲卸さんとの信頼関係なんです。「あのセリ人なら間違いない」「高く売ってくれる」とか。強気でリードできる存在になりたいですね。



**4代続く「節」マスター。
三谷鯉節店
三谷利満さん**

鯉節、雑節、削節、その他乾物の問屋です。明治33年(1900)に創業し、市場の開業と同時にここに移り、私で4代目です。取引先は料理店や大阪市内の小売り店になります。商品は原料を仕入れて昔からかわらない機械で丹念に加工し、質のいい削りたてをすぐだせるのが自慢。市場見学会で訪れた一般の方は、その絹のような手触りと芳醇な香りに驚かれます。

食のプロのあんな仕事、こんな仕事。
市場で働く人。

取材文／松本創 李宗和



**バナナの「旬」をコントロール。
大阪中央バナナ加工
田島肇さん**

入荷されてきた青く渋い味のバナナを、「室(むろ)」という発酵室に入れ、黄色く甘いバナナにする、「追熟」というマニアックな作業(笑)を行っています。夏は傷むのが早いので「青めに仕上げてください」といった買い手さんの要望にあわせて、温度管理をはじめとした「室」の中の環境を機械で制御しないとけません。簡単だと思われそうですが、なかなか気の抜けない仕事なんですよ。



重い荷物ならオレの出番! フォークリフト

ターレットと並んでよく走っているのが、ご存じフォークリフトだ。「じゃがいもとかの重量のある野菜を運ぶ時はこれでないと」と、大果大阪青果の北田智明さんが教えてくれた。なるほど、いちいち荷台に積み替えたりせずとも一気にトラックまで運べるから、重いものを運ぶ時には特に威力を発揮。高い所に持ち上げるのも楽々だ。ちなみに、フォークリフトを運転するには、みなさん講習を受けているのだそう。

取材文／大迫力

働くのりもの。

市場はのりものの宝庫だった!



人気No.1のスピードスター。 ターレット

荷台に荷物をさっとのせられ、小回りも利くため、鮮度が命の現場では実に重宝する。内側のハンドルを倒せば発進、外側のハンドルを切ればカーブする。レバーひとつで前進/後進も切り替えられる優れたものだ。「慣れた人ならどこに段差があるかまで頭に入れて運転していますよ」と、仲卸の株式会社特水の杉本信裕さん。トラックから降ろした荷物を配達する際など、場内でのスピード移動には欠かせない。



大阪から全国へ一気にお届け。 大型輸送トラック

もう一つ、流通の最前線で欠かせないのりものと言えば、こちら。大型の輸送用トラックだ。市場では10トン級のトラックも頻繁に出入りする。搬入時、荷物を満載したトラックの両側のハッチが開き、魚や野菜がどんどん運び出される光景は圧巻。また、セリ落とされた食材は、空のトラックに積み込まれて、小売店などへ配送されてゆく。ここでは、1日約1000台の大型トラックが出入りしているという。



小回り抜群、どこでも配達。 でっち車

のりものという手押し車的一种。古道具のようにも見えるが、どっこい市場ではまだまだ現役で、発泡スチロールを満載しているのをあちこちで見かける。「近くにもを運ぶ時や狭いところを通るには一番便利です」と株式会社卯之助の黒木智さん。昔は商家の丁稚がよく使っていたことから、この呼び名が定着したというのが大阪らしい。今や製造しているところがほとんど無いため、修理などには一番お金がかかるそう。

大阪市中央卸売市場 80年のあゆみ。

文/松本創

大阪市中央卸売市場本場が昭和6年（1931）11月、この地に開設された理由は、1500tまでの汽船が接岸できる、国鉄西成線から貨車が引き込めることだった。だが、それだけではなく歴史の必然がある。豊臣時代に興り、大坂の流通を支えた三大市場、「天満青物市」「雑喉場魚市」「堂島米市場」は

揃って中之島周辺だった。それらの機能を吸収し、諸藩の蔵屋敷が建ち並んだ「天下の台所」の中心で80年の時を刻んできたのだ。戦時の統制経済、戦災による壊滅的被害を乗り越え、昭和25年（1950）には戦前の入荷量を上回るまで回復。取扱量が増え昭和39年に東部市場も新設されたが、今なお東京の大田、築地に次ぐ取扱高を誇る。水産・青果に各2社の卸売業者があり、仲卸業者は計370社。豊かな食材が全国から集まり、季節ごとに桜前線ならぬ「ブドウ前線」や「サバ前線」が通過してゆく。これらの豊かな食材に「公正な値を付けること」が卸売市場の重要な役割。セリを通すこと



開業当時、昭和6年頃の中央市場の様子。（大阪毎日新聞社「西日本現代風景」より）

によって、生産者と消費者の間が適正な価格で結ばれる。最近では、仲卸業者との間で事前に卸値が決まる「相対取引」が増えているが、ここではまだまだセリが主流。大阪の流通を支えてきた市場の気概である。

News&Topics 市場へ行ってみよう!



●食文化の歴史がわかる資料室。

市場の業務管理棟の中に誰でも利用できる資料室があるのをご存じだろうか。市場内にあるのは日本唯一で、大阪の食文化や食品流通に関する書籍や雑誌など、市販されていないものも含め約18,400冊所蔵。貸し出しはできないが、自由に閲覧できる。
☎06-6469-7855 9:00AM ~ 3:00PM 土・日・祝および休場日は休み



●一般向け「見学ツアー」も随時開催。



「開かれた市場」をモットーに、場内の見学ツアーも募集している。市場の業務についてのレクチャーのあと、セリの様子などを間見学。学校や団体の社会見学から、個人による申し込みまで幅広く対応。最低3ヶ月前からの申し込みが必要だが、興味のある方はぜひ!

問い合わせ ☎06-6469-7850（大阪市中央卸売市場本場市場協会）

●11月27日に市場まつりを開催!

今年で開場から80周年を迎えるのを記念して、「市場まつり」が行われる。市場で扱っている新鮮な野菜や魚などの即売会があるほか、マグロの解体ショーや模擬セリの実演など、ふだんはなかなか見られない市場の仕事ぶりを感じられるイベントになりそうだ。入場無料・雨天決行（※荒天の場合は問い合わせを）。なお、車の来場はできないので注意。

日時 / 11月27日（日）
9:00AM ~ 2:00PM
問い合わせ ☎06-6469-7956（事務局）



2011年
12月講座

久坂部 羊さんと一緒に読もう!
「中之島ふらふら青春記」読書会
講師/久坂部 羊 (作家・医師)

阪大医学部時代の
思い出や創作秘話を
著者・久坂部さんと
一緒に語り合う読書会。
気になる質問も
直接聞くことができます!

月刊島民が誇る大人気連載である「中之島ふらふら青春記」(P14)は、作家・久坂部羊さんが、まだ中之島にキャンパスがあった頃の大阪大学医学部で過ごした日々を回想しながら綴るエッセイ。タイトルどおりの奔放な日々を振り返る笑えるエピソードも多いが、学生時代と現在を照らし合わせる中で生まれてきた自戒や問題提起を含むことも多く、毎回読み応えたっぷり。「欠かさずに読んでいます!」「全部読みたいのでバックナンバーがほしい」など、その人気は編集部に届く読者の反響からも伝わってくる。

今回の講座は、この「中之島ふらふら青春記」を、著者である久坂部さん自身と共に読めるという豪華な企画。創作の秘話やエピソードの裏側などを直接聞くことができる。参加者のみなさんからの



感想や質問も大募集。思い出に残っているエピソードを語っていただいたり、連載を読んで気になったことなどを、久坂部さんに質問できるコーナーも。

参加者全員で語り合うアットホームな雰囲気の中、作家と直接触れ合うことのできる貴重な機会。おかげさまで3年目を迎えることのできたナカノシマ大学の「忘年会」のつもりでお楽しみください!

会場は連載ともリンクするあのカフェ。
紅茶とケーキが付いてきます!

今回の会場[カフェ トゥレジュール]は、久坂部さんの連載にも登場した紅茶専門店[ティーハウス・ムジカ]によるカフェ。紅茶とケーキをいただきながらお話を聞ける優雅な読書会となりそうです。



募集要項

久坂部 羊さんと一緒に読もう!
「中之島ふらふら青春記」読書会

講師/久坂部 羊
日時/12月5日(月) 7:00PM~(開場6:30PM~)
会場/カフェトゥレジュール(アクア堂島フォントナ館3F)
受講料/2,000円 定員/80名
主催/ナカノシマ大学事務局
協力/大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 ※久坂部さんへの質問もお書き添え下さい!

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学12月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



ホワイトボードを駆使して丁寧に話してくれた釈先生（左）のプレゼンテーションは、まさしく大学の講義のようだった。

2011年9月30日（金）

「大阪の神さん、仏さん〈仏さん編〉その1」

＠追手門学院 大阪城スクエア

対談／釈 徹宗（浄土真宗本願寺派住職）

高島幸次（大阪大学招聘教授／大阪天満宮文化研究所員）

釈 徹宗先生と高島幸次先生による「大阪の神さん、仏さん」シリーズもいよいよ第4回目。前回までの〈神さん編〉3回に続き、今回からは大阪の仏教と寺院について考える〈仏さん編〉がスタート。雨のなか、会場の大阪城スクエアに多くの人が集まった。

まずは釈先生のプレゼンテーション。仏教ってそもそもどんな宗教なの？と疑問を抱くナカノシマ大学生へ、実に分かりやすい仏教入門講義が行われた。「仏教とは生きること＝苦であるという認識から始まり、苦とは現実と認識の間のズレが引き起こすもの」「我々は生きるために様々な自分の都合に縛られている。それが煩惱です」とお説法のようにためになるレクチャー。「日本仏教には基本的に出家・在家の区別はなく、世俗者として生活しながら悟りを拓くことを良しとする風潮があり、それが日本仏教の出发点」であると、四天王寺を建立した聖徳太子が重用したお経を例に挙げた。

また、大阪の仏教史を考える際の枠組みとして、「西に沈む夕日」を望むこと

ができる地形、寺内町の多さ、浄土真宗が多い宗派の偏りを指摘。親鸞や蓮如を慕った浄土真宗門徒には商人・漁師といった特殊技能民が多かったが、彼らの活躍によって大阪で寺内町経済が発展し、合議制によって民衆が自主運営する都市国家が作られた。この「信仰共同体」を核とした地域共同体の発達のプロセスに、大阪の特徴を見出した。

「大阪は神社の数が全国で下から数えて3番目。寺内町はあっても神社町はありませんね。こんな第一声から始まった高島先生との対談は、浄土真宗と商業都市・大阪の関係がさらに掘り下げられた。

高島先生の「真宗は商人に向いていた？」の問いには、「真宗は特殊技能民の間で大きくなった宗教で、塩の道、材木の道などは真宗の寺内町同士のネットワークから生まれたものです」との回答。これを受けて高島先生は「大阪の同業者をつなげた宗教と言えるでしょうね」とまとめた。

終盤は大阪の宗教的地形の話へ。「上

町台地は西方浄土を拝むのに恵まれた土地では」とする高島先生の指摘に、釈先生も「四天王寺は、大阪の死生観の本拠地と言えますね」と同意。しかし、浄土とは仏のいる場所、つまり四方八方にあるとするのが日本的な考え方。「真宗は浄土への敷居が低いんですね」という高島先生の感想については、「真宗の一つの大きな特徴。365日タダでいつでも仏法説教しているのはうちだけです！」と自らも僧侶である釈先生が切り返し、会場の笑いを誘った。

今回はさらに、大阪の仏教・お寺の特徴が、商業都市形成にどのように影響してきたかを探っていく。大阪の神仏対談シリーズは円熟味を増し、ますます目が離せない。



高島先生の神社や神道における信仰との違いを意識した質問により、ぐっと内容が深まった。

21世紀の懐徳堂プロジェクト

11月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懐徳堂プロジェクトとは…
ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の[アートエリアB1]。11月のラインアップはこんな感じ。

1	火	6:30PM～ 8:00PM	学生プレゼンテーション「阪大生による、中之島でのアートイベントの可能性」 定員/40名程度
4	金	6:30PM～ 8:00PM	カフェ・オンザエッジ・ネクスト「ナノ世界の職人技を支える(自己組織化)」 定員/40名程度
9	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ/哲学カフェ「なぜ、就活生はリクルートスーツを着るのか?」 定員/50名程度
11	金	6:30PM～ 8:00PM	カフェ・オンザエッジ・ネクスト「緑の下の力持ち(細胞膜)が未来のものづくりを変える」 定員/40名程度
17	木	6:30PM～ 8:00PM	カフェ・オンザエッジ・ネクスト「免疫は微生物を必要としている?～化学の目から見た身の回りの細菌と活性物質～」 定員/40名程度
18	金	6:00PM～ 8:00PM	プロジェクト・ミーティング「大阪に、中之島に必要な美術館を考える6/ワルシャワと大阪、未来の美術館」 定員/50名程度
22	火	7:00PM～ 9:00PM	シアターカフェ「～たかが宴会芸、されど宴会芸～ 宴会芸の作り方 演劇篇」 定員/30名程度
25	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ/セミナー「ワークライフバランスから“働く”を考える」 定員/50名程度
27	日	1:00PM～ 3:00PM	中之島哲学コレージュ/哲学セミナー「古い衰えゆくことの発見(1)―できなくなる身体―」 定員/50名程度
30	水	6:30PM～ 8:30PM	カフェ・オンザエッジ・ネクスト「プリンターで、細胞を、生きたまま印刷する」 定員/40名程度

会場/アートエリアB1 参加費/全て無料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ/[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪21世紀協会

財団 大阪21世紀協会

●アート・アセンブリー2011 関西を拠点に活動する優れた芸術家・音楽家をご紹介します。

18	金	6:30PM～ (交流会 8:00PM～)	大蔵流狂言「口真似(くちまね)」 出演/善竹隆司(太郎冠者)、善竹隆平(主)、上吉川徹(客) 合唱「H・シュツツ 合唱曲集より」 武満 徹「小さな空」「翼」、柴田南雄「追分節考」 出演/大阪コレギウム・ムジウム
-----------	---	-----------------------------	---

会場/クラブ関西 参加費/5,000円 申込方法/氏名・会社名(所属部署)・電話番号・FAX番号・メールアドレスを記入の上、FAXでお申し込み下さい。
FAX. 06-6942-5945 問い合わせ/大阪21世紀協会 アート・アセンブリー担当 ☎06-6942-2004



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

※大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai (common café) まで。

1	火	8:00AM~ 10:00AM~ 1:00PM~ 3:00PM~ 5:00PM~	「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費/3,000円(レンタル一式+保険+協力金)	会場 E
3	木 祝	1:00PM~ 4:00PM	「赤ずきん携帯ミラーのワークショップ」annas 川畑杏奈(刺しゅう作家) 参加費/4,200円	会場 H
6	日	11:00AM~ 2:00PM	「basement御船尚弘が教えるレーザークラフトワークショップ」御船尚弘 参加費/初級3,600円(材料費込)・中級別途	会場 K
12	土	10:30AM~ 11:40AM	「第6回カフェ活 料理本にも載ってない!今日から料理が楽しくなる話」ものえゆかこ(お料理作家) 参加費/前売2,000円 当日2,500円	会場 G
12	土	11:00AM~ 1:30PM	「英米文学のおいしい時間」武田雅子・中東ゆうこ(料理担当) 料金/3,800円(テキスト+ランチ付き)	会場 I
12	土	2:00PM~ 4:00PM	「初心者のための 絵画塾~オイルパステル」柿坂万作(画廊喫茶フレ임ハウス店主) 受講料/2,500円(画材費込み)	会場 F
12	土	4:00PM~	「沖縄の酒の肴料理教室」中原明子(旅の酒肴料理研究家) 参加費/3,500円	会場 C
13 16	日 水	13日/11:00AM ~2:00PM 16日/7:00PM ~9:30PM	「まーさまーラの食卓 料理教室『休もう~玄米小豆粥』」中東ゆうこ(ポーポー屋店主) 料金/3,800円	会場 I
15	火	7:30PM~ 9:30PM	「石原正一のヨミすぎ!~古今東西名作朗読会~」石原正一(役者・作演出家) 受講料/1,500円	会場 A
19	土	2:00PM~ 4:00PM	「工作教室Coppa!! -あやつり人形つくりう!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 料金/1,600円	会場 D
19	土	2:30PM~ 4:30PM	「ワイン講座 ~ブルゴーニュ」N.Lee(ボンバル江戸堀店主:ワインコーディネイター) 受講料/2,000円	会場 F
19	土	7:30PM~ 9:30PM	「The AINU MUSEUM FAIR プレイベント」アイヌ民族博物館 料金/700円(ドリンク代込)	会場 K
20	日	2:00PM~ 3:30PM	「かおかおちゃんを作ろう!」hand made felt soi(フェルト作家) 参加費/1,890円(材料費込み)	会場 H
21	月	7:30PM~ 9:30PM	「MC研究会 ~人前で“しゃべり”をみんなで研究しよう!」ネリ(ネリkitchen) 参加費/1フード・1ドリンクオーダー	会場 A
22	火	7:00PM~	「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費/1,500円(お茶付き)	会場 J
26	土	1:00PM~ 4:00PM	「1日マーケティングカフェ」高橋健三(なにわのマーケティングコーチ) 参加料/1,500円(お茶付)	会場 A
26	土	5:00 PM~ 7:00 PM	「奥村昭夫:土曜勉強会」奥村昭夫(グラフィックデザイナー) 受講料/3,500円	会場 B
27	日	1:00PM~ 3:00PM 4:00PM~ 6:00PM	「yamyamとゆらゆらプラ板ブローチづくりの会」yamyamKIKAKU(イラストレーター) 参加費/1,800円(材料費込)	会場 H
27	日	1:00PM~ 2:30PM	「三日月豆のこけだま教室『クリスマス苔玉作りませんか?』」松本佳子(「三日月豆」店主) 参加料:3,000円(お茶とお菓子付き)	会場 I

A common café ☎06-6371-1800

B 000(オー) ☎06-6362-5150

C spice&herb café MASALA ☎06-6360-3813

D morrison(studio) ☎080-3113-4816

E 若松の涙 ※お問合せ:アクアスタジオ ☎06-6125-0550

F フレームハウス ☎06-6226-0107

G ULTRA 2nd COFFEE AND DINER ☎06-6949-8804

H タビエスタイル ☎06-4963-7450

I ポーポー屋 ☎06-6531-7827

J 貸本喫茶ちようちよぼっこ <http://www.geocities.co.jp/chochobock/>

K スタンダードブックストア ☎06-6484-2239



淀屋橋odona アイ・スポット通信



淀屋橋駅直結の複合型商業施設「淀屋橋odona」の2階にある情報発信スペース「アイ・スポット」では、大阪の歴史に関する展示が無料で見られるほか、月刊島民をはじめとするフリーペーパーなど街の情報も集まっています。さらに、毎月さまざまなミニセミナーも開催。会社帰りに、街遊びのついでに、ぜひお立ち寄りください！

セミナー	14	月	6:30PM~ 8:00PM	CITÉさろんトークセッション2011「エンタテインメントと大阪人」 講師／田中宏幸氏(吉本お笑い総合研究所長、プロデューサー) エンタテインメント企業の第一線で活躍する講師に、大阪の風土はなぜお笑い文化を生み育ててきたのかなどについて語ってもらう。●参加者名及び連絡先をメール、電話、FAXのいずれかで申し込み。大阪市都市工学情報センター cite-salon@osakacity.or.jp ☎06-6949-1911 FAX.06-6949-1925
セミナー	25	金	6:30PM~ 8:00PM	大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座 「未来社会のヒントをくれる“生態系サービス”—バイオマスエネルギーとその持続可能性を中心に—」 講師／松井孝典(大阪大学大学院工学研究科 助教) 「生物多様性」とは、様々な生き物がつながって生きていること。そこから紡ぎ出される自然の恵みを「生態系サービス」ととらえ、「未来の社会の姿」を想像してみよう。バイオマスエネルギーを中心に、未来を選ぶものさしについても議論します。 ●アイ・スポット(下記)に電話、FAX、メールのいずれかで名前・電話番号をお知らせ下さい(先着順)。定員/30名
トーク	28	月	7:00PM~ 9:00PM	御堂筋Talkin' About vol.11「考・喫茶店」 ナビゲーター／生駒伸夫(生駒ビルディング)・小川清(平岡珈琲店)・山納洋(大阪ガス) 個人経営の喫茶店は現在、大量生産・消費というビジネスの文脈から遠ざかる一方で、コーヒー豆や焙煎・抽出技術へのこだわり、場のサロン性など、クオリティ重視の手仕事の文化としての色合いを濃くしつつあります。平岡珈琲店の小川店主にお話を聞きつつ、喫茶店文化について語り合います。●予約不要・当日先着順

アイ・スポット 大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋odona2階 TEL&FAX.06-4866-6803 E-MAIL.i-spot@voice.ocn.ne.jp
開館時間/11:00AM~9:00PM(土・日・祝~8:00PM) 年末年始休 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅10番出口直結 京阪本線「淀屋橋」駅徒歩1分
<http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchosei/page/0000018184.html>



大阪大学
21世紀
懐徳堂

大阪大学21世紀懐徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

12	土	10:30AM~ 12:00PM	「狭心症って何」南都伸介(大阪大学大学院医学系研究科教授) 受講料/1,575円
19 12/3	土	10:30AM~ 12:00PM	「あなたの口は使えていますか?」舘村 卓(大阪大学大学院歯学研究科准教授) 受講料/3,150円(全2回)
19 12/3	土	1:30PM~ 3:00PM	「『演歌』の謎を解く」輪島裕介(大阪大学大学院文学研究科准教授) 受講料/3,150円(全2回)

会場/大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html> ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ/朝日カルチャーセンター(中之島)☎06-6222-5224

●大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」 「専門分野の講義」& 「料理実習」で「学問するココロ」が実践的に身につきます。

12/14	水	6:30PM~ 9:00PM	「“エキゾチック”とは何だったのか?~オペラとタジン料理とともに」山田高誌(大阪大学大学院文学研究科助教) 課題料理/モロッコ風料理(タジン料理、クスクス、サラダ、ミントティ)
-------	---	-------------------	---

会場/大阪ガスッキングスクール千里 受講料/1,500円 定員/24名 申込受付期間/11月7日(月)~16日(水)(webは11月7日(月)0:00AM~、電話は11月10日(木)11:00AM~) 申込多数の場合は抽選の上、当選者にのみ11月17日(木)にご案内を発送します。6月と同じ講座内容につき、新規受講生を優先します。申し込み・問い合わせ/大阪ガスッキングスクール千里 ☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>

●大阪・京都文化講座 大阪と京都を比較しながら二都の自然、風土、地誌、都市空間について考えます。

7	月	「バーチャル京都:歴史都市京都のデジタル地誌学」矢野桂司(立命館大学文学部教授)
14	月	「大阪のインナーシティと都市再生の課題」高山正樹(大阪大学大学院経済学研究科教授)
21	月	「京都の災害と歓楽街」高橋学(立命館大学文学部教授)
28	月	「大阪におけるごみ問題の近現代」波江彰彦(大阪大学大学院文学研究科助教)
12/5	月	「京洛の名所と宴席のある風景」加藤政洋(立命館大学文学部准教授)

時間/2:00PM~3:40PM 会場/立命館大阪キャンパス 受講料/1回2,000円 申込窓口/立命館大阪オフィス osaka-of@st.ritsumeiji.ac.jp
☎06-6360-4895 FAX.06-6360-4894 http://www.ritsumeiji.jp/life-09/e09_10kyo_2.html

大学2年の夏休みの終わりに、少し長めの一人旅をした。目的地は下北半島。テレビ番組の題名ではないが、とにかく、遠くへ行きたい、という気持があり、斧のような形もおもしろいので、放浪気分を満喫できると思ったのである。

夜行の寝台特急で下北半島のつけ根にある野辺地という駅まで行き、そこからローカル線に乗り換えて、本州最北端の駅・大畑に着いた。改札を出ると、周囲に人気はなく、おあつらえ向きに冷たい雨まで降っていた。当時の私は暗くて陰鬱なものが好きだったので、晴れよりうっとうしい雨のほうが、よい天気だと思っていた。だから気分よく何も無い町を歩き、だれもない公園や雑木林で時間を過ごした。

昼食をとろうと思っただけで近くのオバサンに聞くと、食堂は1軒しかないと言われた。行ってみると、メニューはたったの4種類（親子丼、玉子丼、中華そば、おでん）。玉子丼を頼むと、中華そばなら早くできると言われたので、注文を変えたが、それでも20分以上待たされた。やっぱり大阪とは生活のペースがちがうなと、妙に納得したのを覚えている。

この旅行では、放浪気分を高めるため、前もって宿泊先を予約しなかった。行き当たりばったりで決まろうと思ったが、初日は適当なところがなく、葉研温泉の観光ホテルに泊まった。シーズンの終わりだったせいか、泊まり客は少なく、ひっそりしていた。

奥薬研に露天風呂があると聞き、雨だったが、夕方、一人で歩いていった。佗びしげなところで、だれもないだけでなく、長らく使われていないようすで、岩に藻がびっしりと生えていた。湯もぬるく、風邪をひきそうだったが、それでもせっかく来たので浸かってみた。傘をさすと、雨の音だけが耳についた。深閑としたぬるい露天風呂の雨音は、今も耳に残っている。

翌日は下北半島の斧の刃の部分にある佐井と

中之島ふらふら青春記⑩ 久坂部羊 ニッポン一人放浪記Ⅱ 〈下北半島恐山〉

いうところまで行き、そこから船で「仏ヶ浦」に向かった。仏ヶ浦は無人の海岸で、漂白された奇岩がそびえ、その神々しい眺めが仏像を彷彿とさせる東北屈指の景勝地である。見上げるほどの巨岩には、「如来の首」「一つ仏」「五百羅漢」などの呼び名がつけられ、大正時代には文人の登山家・大町桂月が「人の世ならぬ処」と歌に詠んだことでも知られるらしい。

空はどんより曇り、海は深いインジゴブルーで、その間に鋭く尖った奇岩は骨のように白かった。私は絵心を大いに刺激され、ほかの見物客から離れて何枚もスケッチをした。

その日は民宿を見つけて泊まり、翌日は下北半島の東の先端にある尻屋崎に行った。灯台を見るのが目的だったが、ここでちょっと困った



ことになった。灯台の方角がわからなかったの
で、バス停の前にある小山に登り、場所を確か
めて下りてきたら、財布がなくなっていたのだ。
小山はけっこう急斜面で、半分這いつくばるよ
うにして登ったので、そのときに落とすのだら
う。道ははっきりせず、腰のあたりまで草が
生えているので、とても見つかりそうにない。
それでも荷物を持ったまま、必死にさがした。
頂上までもどつても見つからず、下りも地面を
なめるように見まわしたが出てこない。取り敢
えず灯台には行ったが、足取りは重かった。こ
の日は快晴で、太平洋の青さと、白い灯台のコ
ントラストが鮮やかだったが、私には白々しく
思えただけだ。

予備の現金は少しあったが、財布がなければ
その日の夜行で帰るしかない。今回の旅行の最
大の目的地・恐山にも行けないと落胆したが、
バスターミナルのむつ駅にもどつて、ダメ元で
「財布が届いていませんか」と訊ねてみると、「こ
れですか」と黒の革財布を出してくれた。紛れ
もなく私のものだ。山で落としたと思込んで
いたが、行きの切符を買ったときに、窓口に置
き忘れたようだった。「俺のアホーッ」と泣き笑
いの自嘲をしながら、ホッと胸を撫で下ろした。

恐山に行こうと思ったのは、イタコに霊を呼
び出してもらいたい人がいたからだ。1人は戦
死した母方の祖父。もう1人は白血病で亡くな
った同級生Mさんである。

祖父は終戦の前年、南方から帰る途中に飛行
機が墜落されて死んだので、私は顔も知らない。
Mさんは小学校の5・6年が同じクラスだっ
た。高めのハスキーな声で、目のくりくりした
オデコの女の子だった。

そのころ、よくクラスのだれがだれを好きだ
などと言いつ合っていたが、Mさんは私のことが
好きだとほかの女の子たちが言っていた。私は
気にも留めず、6年の途中で彼女が入院したあ
とも見舞いに行かなかった。白血病が死病であ
ることは、薄々気づいていたが、あまり考えな
いようにしていた。

あるとき、クラスの有志でMさんにお見舞い
の品を贈ることになり、私は母が選んできた手
鏡と櫛をプレゼントした。そのお礼の手紙に、
Mさんは私に好意を持っていること、しかし、
病気のせいでもう学校へ行けないこと、だから
もう会えないことを書いていた。鉛筆書きのて
いねいな文字で、迷いながら、それでも勇気を
振り絞って書いたにちがいない。なのに私は、
ただ困惑するばかりで、そのまま手紙を引き出
しにしまいこんでしまった。どうしてあのとき
すぐに見舞いに行かなかったのか。今もそれが
悔やまれてならない。

中学1年の夏、突然、Mさんの訃報が届いた。
私は激しいショックを受け、茫然となって、当
時流行っていたフォーク・クルセイダーズの『悲
しくてやりきれない』を何度も口ずさんだ。
葬儀に行くと、遺影のMさんは元気なときよ

り少し顔が腫れているようだった。その写真を
見たとき、私は申し訳ない気持ちでいっぱいにな
り、この世には取り返しがつかないことがある
と、身を切られるような痛みで思い知らされた。

恐山のイタコは、硫黄のにおいの漂う地蔵堂
の参道に、30〜40人、夜店のようにテントを張
って並んでいた。できるだけ神通力のありそう
なお婆さんを選んで、2人を呼び出してもらう
よう頼んだ。イタコは長い数珠をこすり合わせ、
謡うように呪文を唱えはじめた。本人の言葉が
聞けるかと懸命に耳を傾けたが、聞き取りにく
い呪文のまま終わってしまった。

「わかりましたか」と言うので、解説を頼むと、
祖父は「ずっと見守っているが、昭和57年の11
月7日には注意しろ」と言ったらしい（その後、
この日には結局何も起こらなかった）。

Mさんは、「みんなが楽しそうに遊んでいる
のがうらやましい」と言っていたそうだ。それ
を聞いて、私はまた胸がふさがれた。

私は靈魂の存在を信じているわけではない。
死後の世界もほぼはないと思っているが、ないこ
との証明はむずかしいだろう。イタコにMさん
の口寄せを頼んだのは、結局は自分の疚しさを
やわらげたくったからだ。もちろん、それでM
さんの気持を無視した罪が、軽くなるわけでは
ない。

そのまま夜行列車で帰路につき、車中泊を含
め5泊4日の下北半島の旅は、ほろ苦いまま終
わった。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える

契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

『今、発売中の『g2』vol. 8（講談社刊）に、『世界一おもしろい医学概論』の三回目が掲載されています。

『今、発売中の『g2』vol. 8（講談社刊）に、『世界一おもしろい医学概論』の三回目が掲載されています。消化器についての医学漫談です。たとえば便秘の秘密とか、スカトロが人を惹きつける理由など（笑）』

国

立国際美術館の真向かいのマンションに、今年1月にオープンしたのはマタニティ・ベビーフォトスタジオの「soramark」。聞き慣れない読者も多いかもしれないが、ここで撮影されるのは、お腹の中に赤ちゃんがいる時の姿や、お母さんと産まれた赤ちゃんとの記念写真。成人式や七五三の時に写真を撮るように、最近こうしたマタニティ・フォトを撮る人や、専用のスタジオが東京を中心に増えつつある。

「このあたりは毎日、子供たちでいっぱいですよ！うちの息子も何度も市立科学館へ来ています」と話すのはフォトセラピストの相葉幸子さん。ビジネス街のイメージが強い中之島だが、実は子供たちが遊べる場所も多いようだ。堂島リバーフォーラムをはじめ、「アーティストが集まる場所という印象がある」（カメラマン・田中芳香さん）ことも、中之島でスタジオを開く決め手になった。

子供 授けられた喜びを写真に収め、その感情をいつまでも忘れないよう形に残す。そのかけがえの無い一

家族の絆を強くする、
フォトスタジオがあった。



写真教室「親子でフォトコミュニケーション」の様子。撮ったばかりの写真に言葉を添えて撮影を振り返る。子供の意外な視点に驚いたり、心の声を聞いたりすることが今後のコミュニケーションのヒントになるようだ。



カメラマンの田中さん（左）と、フォトセラピストの相葉さん（右）。写真と一緒に、ポストカードなどにも使えるよう撮影データも添えてくれるといった細やかな気配りも喜ばれている。

soramark

写真撮影の他にも、マタニティヨガや親子で参加する写真教室、一眼レフを買ったもののなかなか上手く撮れない人向けのカメラ教室なども開催。さらにインテリアのセンスアップ講座など、生活を楽しむプログラムがたくさんある。☎06-4256-8805 <http://www.soramark.com>



瞬を、さまざまにシチュエーションで撮影する。「きれいに撮るだけではなく、誰もが抱える出産への不安や過去の記憶など、心の中で溢れ出るように」と相葉さん。ポーズを要求するだけの声かけではなく、自分の持つ想いを改めて気づかせてくれるやりとりで、最初は遠巻きに撮影を眺めているだけだったご主人もだんだんと引きこまれていく。「こんなにお腹大きかったんやなあ」と感動し、最後には一緒に写真へ収まることも多いという。

相葉さん、田中さんお二人ともママさんで、その優しいオーラに開放されるのか、妊娠中にマタニティフォトを撮ったお母さんが子供と一緒にベビーフォト、さらには家族全員でファミリーフォト……と宝物を増やしていく。

「soramark」の名前の由来を聞くと、「空ってとても広がりがある、何かできる！」っていう気になるでしょう。それにこの中之島の空！こんなに広くてキレイじゃないですか」。そう聞いてマンション9階の窓から眺める空は確かに広がった。ビジネス街というおなじみの顔だけでなく、中之島にまた新たな表情が加わったようだ。

大正時代に入ると朝日新聞は夕刊の発行を開始し、ページ数も増やして紙面の更なる充実をはかっていた。創刊した頃は20名程度だった社員も、明治末期には450人に増えていた。旧

宇和島藩の蔵屋敷を改造した木造社屋はいよいよ手狭となり、新社屋建設の機運が高まってきた。

そして大正3年（1914）4月3日の紙面に、本館建設の社告が模型写真入りで掲載される。設計に際しては、当時まだ珍しかった鉄筋コンクリート造に詳しい京都帝国大学の日比忠彦教授と、後に京大教授となる「関西建築界の父」、建築家・武田五一を顧問に迎える万全の体制が取られた。新聞社として、最高の技術と建築様式からなる、新時代の建築を目指したことがよくわかる。

工事を請け負ったのは竹中工務店で、設計を担当したのは入社間もない藤井厚二。彼も後に京大教授となる建築家で、大山崎に建てた自邸「聴竹居」は、

第二話

大阪のランドマークだった時計塔。



都市美を
伝えて
朝日新聞と
中之島の130年

取材文／高岡伸一

近代住宅の傑作として知られている。ちなみに藤井は社主・村山龍平の邸宅も手がけた。

そして大正5年（1916）、最高の布陣によって建てられた新社屋が中之島にその姿を現す。石造や煉瓦造が一般的であった時代に、鉄骨鉄筋コン

クリート造が採用された。地上3階・地下1階、中央には5層分の高さの時計塔を設け、デザインには武田五一が得意としたゼツエツシヨンの影響が見てとれる。ゼツエツシヨンは19世紀末のヨーロッパで花開いた新しい芸術で、古典から自由になることを目指してモダンデザインへの道を切り拓いた。

完成披露の祝宴は、500名を超える京阪神の名士を招待して、3日に行われた。会の様子が毎日「新築披露号外」としてまとめられ、当日の祝宴なかばに配られたという。新社屋のみならず、最新・最速の新聞づくりをアピールする場でもあったのだ。これまで見たことのない「オフィスビル」の出現は、市民の間でも大きな評

判となった。建物を見たいという希望が多く、当初は予定されていた一般的な見学会が催され、3日間どころか1万6千人が訪れたという。常に社会の注目を集めてきた「朝日建築」の歴史は、ここからスタートする。

高さ30mを超える時計塔には、四面全てに時計がはめ込まれ、当時は街のどこからでも見ることができたという。直径2・7mもある大時計は、「朝日の時計」と呼ばれて親しまれた。時計塔の存在はランドマークであると同時に、社会に時を告げる、時代を発信する新聞社の自負心の表れでもあったのではないだろうか。

この歴史的な名建築は、新社屋建て替えのため、昭和40年（1965）に解体され姿を消した。意外と最近まで建っていたので、ご記憶の方も多いため。



NAKANOSHIMA
FESTIVAL TOWER
中之島フェスティバルタワー

提供／株式会社 朝日ビルディング

土佐堀川の対岸から撮った竣工間もない頃の朝日新聞社新社屋。当時の肥後橋は鉄橋で、四つ橋筋を市電が走っている。朝日新聞社の右側に見えるのは、大阪中央郵便局。写真提供／朝日新聞社史編修センター

2011年11月1日発行

京阪電車に乗って アートを旅する 「鉄道芸術祭」開催!



西野達 (巨大絵図京阪沿線御案内) (部分)2011



西野達
(Life's little worries in Osaka) 2011
撮影 豊永政史 (SANDWICH GRAPHIC)

沿線のアートスペースを舞台にしたプログラムを、京阪電車に乗って見て回るアートイベント、「鉄道芸術祭」が10月22日(土)から開催中。京阪電車なわ橋駅の「アートエリアB」のほか、中之島駅

鉄道芸術祭Vol.1 「西野トラベラーズ 行き先はどこだ?」

期間/12月25日(日)まで
時間/12:00PM~7:00PM 月曜休
問い合わせ/アートエリアB1

☎06-6226-4006 <http://artarea-b1.jp/index.html>

●「西野達展」会場/アートエリアB1 京阪沿線の巨大絵図をはじめ、西野達による立体彫刻や写真作品などを展示。

●「横山裕一トラベル展」会場/中之島パルクCENTER-A、Antenna Media 漫画界と美術界双方で活躍する横山裕一の代表作「トラベル」をもとにしたプログラム。

京都と大阪の二都市にわたるスケールの大きな鉄道で巡るアートの旅に、ぜひ出かけみては。(大迫力・本誌)

野氏が実際に歩いて見つけた京阪沿線の名所を描いた巨大絵図など、「鉄道芸術」の名にふさわしい作品の数々が展示される。

メイン会場となる「アートエリアB」では、パブリックとプライベートを反転させる大胆なプロジェクトで国際的にも評価の高いドイツ在住のアーティスト・西野達氏(写真)の関西初個展を開催。西野氏が実際に歩いて見つけた京阪沿線の名所を描いた巨大絵図など、「鉄道芸術」の名にふさわしい作品の数々が展示される。

にほど近い「中之島パルク」や京都・清水五条の「Antenna Media」を会場として、アートやダンスなどさまざまなプログラムが予定されている。

大阪城天守閣 復興80周年のイベント



昭和初期、復興に向けての工事が行われている最中の大阪城。

大阪城天守閣が、昭和6年(1931)に大阪市民の寄付によって復興されたから、今年の11月7日で80周年を迎える。これを記念して、11月3日から13日まで、「復興80周年祭 大阪城夢祭2011」が開催される。

期間中は高校生による和太

鼓や吹奏楽の演奏や、大阪城鉄砲隊による実演、戦国武将ゆかりのご当地グルメが味わえるコーナーなどさまざまな催しが行われる。また、3日~7日限定で、重要文化財に指定されている千貫櫓、多聞櫓、金蔵などの普段は見ることのできない建造物も公開さ

大阪城天守閣復興80周年記念 「復興80周年祭 大阪城夢祭2011」

会場/大阪城天守閣前本丸広場
特設ステージ及びその周辺
開催期間/11月3日(祝)~13日(日)
10:00AM~5:00PM ※雨天中止
料金/観覧無料(グルメ大会は有料)
問い合わせ ☎06-6941-3044
(大阪城天守閣)
詳しくは<http://www.osakacastle.net/>

れる。11月7日は天守閣への入館も無料となり、先着800名に記念バッジのプレゼントも。よく目にはするもの最近に行っていないという人は、この機会に大阪のシンボルである大阪城の魅力を存分に体感してほしい。(金哲志・本誌)

おなじみ高島幸次先生が出演する落語関連のイベント「第2回追手門寄席」は、前回の「古典・擬古典・創作落語の大阪丹に続き、「上方落語に登場する武士たち」をテーマに開催される。商人の町というイメージが強い大阪だが、上方落語には大阪城や町奉行所、中之島の蔵屋敷などに仕えていた武士が登場する事も多い。



第2回追手門寄席 「上方落語に登場する武士たち」

会場/追手門学院大阪城スクエア
開催日時/11月5日(土)
2:00PM~4:30PM
定員/200名 参加費/1,500円
申し込み/追手門学院大手前センター
☎06-6942-2788
詳しくは<https://www.otemon-osakajo.jp/>

授の岩城卓二先生と高島幸次先生を加えたり名が、「町人の町の武士たち」というテーマで語り合う。落語や対談を通して大阪の武士文化に触れ、

江戸時代に思いを馳せてみよう。(金哲志・本誌)

落語を通じて 大阪の武士文化を知る!

堂島浜のサントリー本社工場で1周年を迎えたウイスキーショップ「W」。ビギナーからマニアまで、奥深い魅力を伝えるショップならではのオリジナルボトルが10月に発売された。アイラ島に最古の蒸溜所を持ち、「アイラモルトの女王」と称されるシングルモルトの名門「ボウモア」が送り出した逸品である。
最低15年熟成させたボウモア



**スコッチの名門
ボウモアが送る
「W」1周年
限定ボトル。**



アを加水や冷却る過をせずにボトリングした樽出し原酒。銅色の輝きと、アイラ特有のピーティさの中に感じられる

熟成感のある香りが特徴。「グリーミーなスモーキーさと熟したフルーツのようなバランスの取れた味わいが、長い余韻を持ってお楽しみいただけます」と阿部浩二店長。アルコール度は54度。700mlボトル・1万5000円(税込)を限定2400本販売する。月刊島民読者向けに無料試飲サービスも(※詳細は以下)。(松本創・本誌)

◎月刊島民を持参すると、「W.オリジナルボウモア」の試飲が1杯無料に!

ウイスキーショップ【W.】
サントリーの扱う国内外100種のボトルが揃い、有料試飲やセミナーもある「洋酒天国」な店。無料試飲は島民本号持参の方、先着50名に。ただし1人1杯まで。
☎06-6341-3123
11:00AM~7:00PM 土・日祝休

大阪21世紀協会による「アート・アセンブリー2010」は関西・大阪で活動する優れた音楽家や芸術家を育成することを目的に、ナカノシマ大学や大阪大学21世紀懐徳堂と

共に、街に学びの場を創り出すための「21世紀の懐徳堂プロジェクト」の一環として行なわれている。
10月6日から10日まで、心齋橋において、新進気鋭の若手アーティスト57組による展

覧会「アートのストリーム2010」が開催され、約4000人の来場者で賑わった。最終日の10日には、アートのストリームアワードの発表があり、続いてアート・アセンブリー事業としてアーティストパティーが開催された。多数の参加者がアートのストリームアワード受賞者を含む出展アーティストとの交流を楽しんだ。
また、11月18日



絹谷幸二審査員長をはじめとする審査員と受賞者たち。



(金)にも、大阪文化祭賞受賞者である合唱の大阪コレギウム・ムジクムや、大蔵流狂言の善竹隆司・隆平による公演と交流会が予定されている(PI)。(大迫力・本誌)

酒と落語の深い関係を知らう

毎回、幅広い分野から講師をゲストを迎え、歴史や文化を紹介する「京阪・文化フォーラム」。第27回目を数える今回は「酒は百薬の長 落語は百薬の長」と題し、酒と落語にまつわる2部構成のプログラムが天満天神繁昌亭にて開催される。



「機代亭」風俗画報より



桂福丸 笑福亭三番 笑福亭福笑

見の御香宮神社宮司である三木善則氏と笑福亭福笑師匠。さらにこちらもナカノシマ大学でもおなじみの高島幸次先生が「酒と落語の効用」について鼎談する。どちらも抱腹絶倒間違いなしで、あっといふ間の2時間になりそう。だ。(金哲志・本誌)

第27回京阪・文化フォーラム
「酒は百薬の長 落語は百薬の長」

会場/天満天神繁昌亭
日時/11月26日(土)10:00AM~12:00PM
定員/200名 参加費/1,500円

応募方法/往復ハガキに「京阪・文化フォーラム参加希望」と記入の上、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号・参加人数(2名まで)を明記し、下記まで郵送。
応募者多数の場合は抽選。※締め切りは11月7日(日)

応募先/〒540-6591 マーチンダイスビル内郵便局 私書箱35号
問い合わせ☎06-6944-2525(京阪電車宣伝担当「京阪・文化フォーラム」係)
ホームページでも受付<http://www.okeihan.net/forum/>

京阪沿線 島民の部屋から。

取材文／狩野哲也
写真／李宗和



Data キッチンを含めたリビングが13畳、寝室6畳、和室6畳、独立した洋間が6畳。庭は8畳。全体的にモノが少なく、シンプルな生活スタイルが伝わってくるが、「それは洋間が物置と化しているからできる」ことなのだとか。玄関には結婚式に出席した友だちから決められたメッセージが飾られている。

こちらがリビング。千穂さんがコスタリカ旅行で購入した真っ赤な敷物が壁のアクセントに。大画面のテレビを見ながら千穂さんの手料理を食べるのが日課になっている。



お互いの会社の合同社員旅行で知り合ったという森田夫妻。今年の5月に結婚し、6月に一緒に住み始めたというから新婚ホヤホヤ。後ろの絵画は新婚旅行で訪れたオーストラリアで買ったお土産。アボリジニーの方が描いたものでふたりのお気に入り。

知憲さんは枚方市や寝屋川市で注文住宅を扱う会社の営業マン。お客さんから一度は住んでみたい場所・人気No.1の街としていつも樟葉が挙げられるそう、知憲さん自身も様々な物件を提案しているうちに、いつしか樟葉に住んでみたいと思うようになった。

「友だち夫婦がこの上の階の部屋に住んでいたんです。遊びに行くたびに広くて良い部屋だなと思っていて。1部屋だけ空いていると聞いて、条件が良いのに家賃が安いのですぐに引越を決めました。樟葉は便利だし、住宅街でもあり、オフィス街でもあり、郊外でも豊富な不思議な街。これが決め手ですね」。その後、奥様の千穂さんとの出会い、一緒に住むようになった。

京阪電車の樟葉駅からバスで10分のどかな住宅街の中に森田邸がある。守口市で育った千穂さんは「少し歩いただけで田んぼや畑がある光景が気に入りました。それに自転車で行ける範囲にスーパーマーケットが7軒もあるのがうれしいです。JAのふれあいセンターでは毎日並びますよ。地元の農家さんがその日の朝に収穫したばかりの野菜が置いてあってうれしいです」。休みの日は樟葉の街をふたりでドライブすることも多い。「気になるお店がいっぱいあります。先日も前から気になっていたパスタ屋さんに入りました。樟葉駅から自宅までの間に結構お

樟葉

森田知憲さん千穂さん

部屋が多いことで楽しみが広がる、新婚夫婦の家。



左/パソコンがリビングに仲良く2台並ぶ。テレビを見ながら事務作業をすることも。右/時々猫が遊びにきてくれるという広い庭。野菜を育てたり、テーブルを出して食事したりできるかも、と楽しみが絶えない。

店がありますから、これからふたりで開拓していきたいですね」。

千穂さんは結婚する前に青年海外協力隊としてドミニカ共和国で数年間過ごしていた。帰国後、電車やバスに乗ってもみんながケータイを見ていることに最初は戸惑ったそう。「ドミニカでは誰かが話しかけてきますからね。でも樟葉ではお店でも買い物カゴの身を見て、それどこにあるの？何つくの？と声をかけてくれる主婦の方が多くてうれしいです」。

ドミニカでの生活はスペイン語を使



千穂さんの趣味はパンを焼くこと。いずればパン教室を開きたいのだとか。

うちの近所のお気に入り。



JA北河内 ふれあいセンター

「毎日安くて新鮮な商品が並び、朝早くから行列が続くほどの盛況。休日はさらに活気づきます」と千穂さん。JAの精米や玄米なども販売し、特に切り花などの販売は大人気。また、環境にやさしい農産物を提供するため、レンゲを栽培し、それを肥料とした地元産のレンゲ栽培米である「しあわせのれんげっ娘（大阪府エコ認証）」も11月から販売する。

☎072-836-8888 9:00AM ~ 4:30PM 月曜休

っていたこともあり、将来は言葉を活かした仕事をしたいと考えている。「枚方市は関西外国語大学がそばにあるので、ホームステイができる家庭を広く募っています。だから将来、生活が落ち着いたら、スペイン語圏の学生を受け入れてみようかとふたりで考えているんですよ」。はるか遠い国から訪れる学生が、樟葉で最初の日本を体験する。ふたりはそんな未来が来ることを、心から待ち遠しく思う。

31分で中之島とつながる“京阪沿線理想的住宅地”



くずは駅周辺写真



fine Plaza Kashiwa The Residence

ファインフラッツ樟葉 ザ・レジデンス

- 所在地/大阪府枚方市
- 敷地面積/4,519.51㎡
- 総戸数/99戸
- ◆最寄駅/京阪電車「樟葉」駅

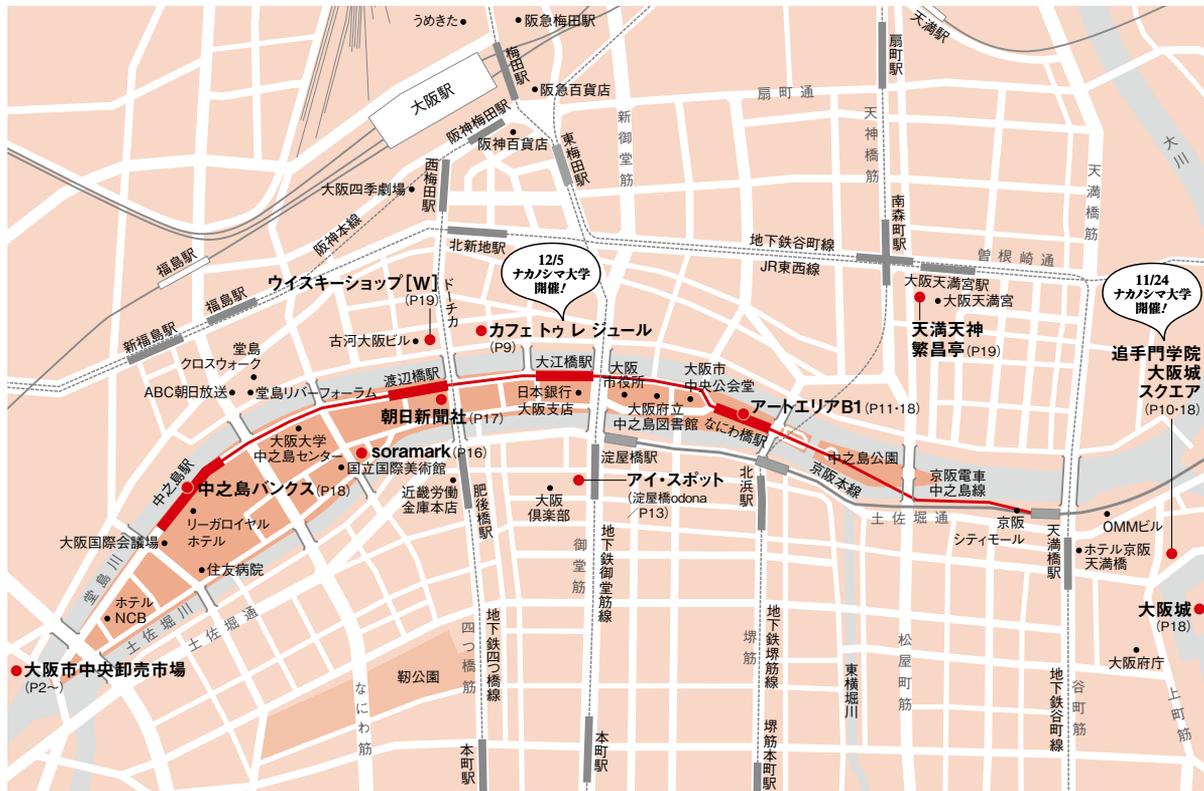
※所要時間は目安です。
時間帯等により異なる場合があります。

京阪グループが提供する住まいの情報
<http://www.keihan-kiss.co.jp>

つぎのくずは、見えてきた。
半世紀を経て成熟の街並みが広がる「くずは
ローズタウン」。花と緑と太陽の街にふさわし
い住宅街とともに、ショッピングやグルメなど
の多彩な暮らしを応援する「くずはモール」や
スポーツ・文化を通じて豊かな
暮らしを育む「京阪くずは体育
文化センター」など、生活環境
をトータルに考えた理想的な
街づくりを推進してきました。
そうした街づくりの思想を
受け継ぎながら、「もっと誇れるくずはへ」を
開発コンセプトにした「KUZUHAMALL」
増床リニューアル計画や京阪グループの理想を
結集したマンション計画も着々と進行して
います。いまなお多くの人に愛されるニュー
タウンは、これからも多くの憧れをかなえる
ニュータウンへ。心地よい秋風に吹かれて、
つぎのくずはが見えてきました。



大「島民」MAP 橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!



『月刊島民』はここでらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪中津
- 大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店本店/旭屋書店梅田地下街店/カハラ書店/紀伊国屋書店本町店/ジュンク堂書店大阪本店/ジュンク堂書店梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックスア/ブックススタジオ/天神塚書店大江橋店/ブックファースト梅田店/ブックファースト淀屋橋店/文教堂書店淀屋橋店/隆祥館書店
- 【公共施設・大学関連施設など】アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニー会館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAILSインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町/ろうきんギャラリールーメン
- 【店舗・医院など】アリアスカ マーブルトレ/アンドール 本町本店/上町貸自転車/ Ultra 2nd/江戸前製料理 志津町/ EXPO CAFE / MJB珈琲店/大阪洋服店/000 (オー) /カセッタ/喫茶カンターロ/喫茶SAWA / グラスイート中之島/黒門さかえ/コモンカフェ/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/じろう亭/ Girond's JR /心齋橋山田兄弟歯科/住友病院/セインレブ大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティールハウスジカ/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/ NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャーノ/バストラレ/花かつ/ BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマアカカフ/フレイルハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとり ばかや/吉田理容所/ラ・クッカーニャ/ LES LESTON
- 大阪市内その他 【書店】伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳ヶ堂 【公共施設・大学関連施設など】大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立図書館 【店舗・医院など】あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御船かもめ/ Calo Bookshop and cafe /写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホテル64オオサカ/ MANGUEIRA / Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/ Books 呼文堂/水嶋書房 くずはモール店/水嶋書房 くずは駅店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画広報/社会学務室/大阪大学 21世紀徳義堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 新宿店/ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/街・発信/納屋工房/タバーン・シンブリン/百練/男山市民図書館/奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 中之島の「現場」、生中継。

タワー型オフィスビルをはじめ、中之島には現在建設中の物件がある。その「工事現場」を覗くことで、未来の中之島を先取りしてみよう。

●『月刊島民』vol.41は2011年12月1日(木)発行です!

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
 編集・発行/月刊島民プレス
 若狹健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
 松本 創 大迫力(編集集団140B)
 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
 Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
 制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
 デザイン/山崎慎太郎
 表紙イラスト/奈路道程
 印刷/佐川印刷株式会社